太師森遺跡とは

縄文人の祈りと死生観を伝える ストーンサークルと墓が共存する、世界的にまれな遺跡

太師森遺跡は、今から約**4,000年前**（縄文時代後期）につくられ、石を円形に並べた環状列石（ストーンサークル）と、石で造られた墓（石棺墓）、再葬に用いられた**土器棺墓**が共存する遺跡です。**全国的にも例が少なく**、世界的にもまれな遺跡で、当時の精神文化や死生観を知るうえで極めて貴重な文化遺産です。

① 基本情報

名　称	太師森遺跡
所在地	青森県平川市新屋遠手沢（山間部）
時　代	縄文時代後期（約4,000年前）
規　模	南北約40m・東西約45mの環状列石を中心とする遺跡
発見の経緯	昭和27年、民間考古学者・葛西賢造氏が山の稜線の不自然さに気づき、試掘により環状列石を確認。

② 歴史的・学術的価値

1. **環状列石と石棺墓・土器棺墓が共存**
   青森県内で唯一、全国的にも例がなく、世界的にもまれな遺跡です。
2. **北東北の特異な埋葬文化を示す**
   再葬など独自の埋葬儀礼を知る上で極めて重要です。
3. **縄文人の精神文化・死生観を考える手がかり**
   祈り・自然観・死生観など、縄文人の心の世界を考える上で貴重です。
4. **文化庁や研究機関から高い評価**
   平成20年には国史跡指定申請も検討されるなど、学術的価値が非常に高い遺跡です。

③ 遺跡の全体イメージ（復元イラスト）



※発掘調査成果をもとにした復元イラストです。実際の規模・配置は異なる場合があります。

④ 主な遺構の特徴

環状列石（ストーンサークル）
大小の石を運び、円形に並べたもの。祭りや儀式の場、天体観測などの目的があったと考えられています。



石棺墓
石で造られた墓。ごく少数の特別な人物が埋葬されたと考えられ、北東北で発展した独自の埋葬文化を示しています。



土器棺墓（再葬）
遺体の骨を取り出し、川や泉の水で洗い、土器に納めて儀式を行った上で再埋葬したと考えられています。



⑤ 縄文人の埋葬の流れ（イメージ）



1. 石で造られた墓に、遺体を埋葬します。
2. 遺体が朽ちた後、骨を取り出し、川や泉などの水で洗います。
3. 洗った骨を土器に納め、儀式を行った上で再び埋葬します。

⑥ 出土品のイメージ

※実際の出土品とは異なります。



- **石器**（石斧・石鏃など）
- **縄文土器**（儀式や再葬に使われた土器）
- **石製品**（装飾品・石棒など）

⑦ これまでの情報発信

- 発掘調査時の現地説明会や調査成果の速報展
- 平川市文化センターでの展示（出土品・写真・パネル・映像）
- 県や市外での展示会への出展
- 市ホームページ・広報紙での紹介
- 縄文をテーマにした講演会の開催（令和5年度～）



⑧ 発生した問題（間伐事業による損壊）



- 令和4年、県への事前届出なく間伐事業が実施され、遺跡の一部が損壊。
- 土のう袋や配石の露出が確認された。
- 原因は、事業関係者の遺跡に対する認識不足と情報共有の不備。
- 今後は関係部署と連携し、情報共有を徹底し、再発防止に努めます。

⑨ 今後の保存・管理の方針

- **法的保護の強化**
  国史跡指定に向けた調査・検討を継続。
- **開発行為の防止**
  市役所内の情報共有、関係団体への周知徹底。
- **遺跡の現状維持**
  定期的な巡視・草刈り、自然環境の保全。
- **調査研究の継続**
  最新の研究動向を注視し、必要に応じて発掘調査や保存方法を検討。
- **地域・関係者との協働**
  土地所有者・や関係団体と連携し、保存に向けた協力を求める。

⑩ 具体的な有効活用策



- **展示・学習の充実**
  文化センターで展の充実、学校での郷土学習・出前講座。
- **デジタル活用（VR・映像）**
  VR・ARによるバーチャル体験、動画コンテンツの制作・発信。
- **観光・地域振興との連携**
  周辺の自然・史跡と連携した周遊ルートの整備、ガイド育成、イベント開催。
- **市民参加・協働**
  市民ボランティア、団体と、連携し、市民と共に活用方法を検討。

⑪ 一般質問での主な質疑応答（要旨）

Q 遺跡の価値は？
A 環状列石と石棺墓・土器棺墓が共存し、全国的にも例が少なく、学術的価値が高い遺跡です。

Q これまでの情報発信は？
A 現地説明会や展示会、文化センター展示、ホームページ、広報紙などで紹介してきましたが、市民への周知は十分とは言えません。

Q 損壊の原因と再発防止策は？
A 事業関係者の認識不足と情報共有の不備が原因です。関係部署と連携し、情報共有を徹底し、再発防止に努めます。

Q 国史跡指定・土地の購入は？
A 国史跡指定を見据えた調査・検討を継続します。土地の取得については、所有者との調整や財政面を踏まえ、総合的に検討します。

Q 遺跡の活用策は？
A 展示・学習の充実、VRなどデジタル活用、観光・地域振興との連携、市民参加による協働など、平川市の貴重な文化資源として未来に伝えていきます。